

(調査様式1)

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 23年7月12日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	第4690200227号
法人名	株式会社シモンズ
事業所名	グループホーム鹿野苑
所在地	鹿児島県薩摩川内市網津町4915番地1 (電話) 0996-31-2882
自己評価作成日	平成23年4月1日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島県鹿児島市下荒田2丁目48-13
訪問調査日	平成23年4月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ① 『温もりを伝え、手も心も包み込み、あなたを優しく見守ります』の理念を基に自分や家族が受けた介護・利用者生活歴を尊重し、その人らしい生活ができる介護を目指している。
- ② 基本理念を周知徹底する為に、朝のミーティングの際に理念を唱和を行っている。
- ③ 職員個々の『自分が理想とする介護』を実践する為、『こうしなければならない』という枠を設けず、職員個々の考え方・意見を尊重し、入居者一人一人に対しての介護の在り方を話し合いながら構築している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

さつま川内市北部郊外の閑静な地にグループホーム鹿野苑がある。ホームの脇を肥薩オレンジ鉄道が走っており、ホームから列車を眺めることができる。開設して間もないグループホームであるが、全職員が理念と方針を暗記し、理念に基づいた介護を目指し日々のケアに邁進している。

外出支援もさまざまな取り組みがなされており、毎月、利用者が楽しみにしている外食とお寺詣り、散歩はもちろん、ドライブや足湯、買い物など可能な限り日常的に外出の機会を作り、職員も利用者と共に楽しめる、ホームに閉じこもらない生活を支援している。

排せつについては個々のパターンを把握しやすいように、排せつチェック表を工夫して、夜間でもおむつ・ポータブルの使用はしない方針で個人の尊厳を重んじた支援を行っている。

職員育成にも力を入れており、年間の研修計画を立てて各委員会を中心にホーム内研修が行われており、資格取得に向けた支援も行っている。また、職員の意見や提案も多く、さまざまな取り組みが利用者へのサービスの質の向上に結び付いている。職員間のコミュニケーションも良く、ゆったりとした介護、個別ケアなど理想とする介護を目指している。開設2年目に向けた今年度の取り組みも大いに期待できるグループホームである。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ．理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	朝の送り時、理念の唱和を行い、意識付けを行っている。	経営理念をふまえた5項目の方針を掲げ、「地域に開かれた施設作りを目指します」との地域との関係性を盛り込んだ方針もある。職員全員が理念と方針を暗記しており毎朝、唱和して理念の共有を図り日々のケアに反映させている。理念は職員のネームの裏に明記している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩の途中等、隣近所の住民と気軽に挨拶を交わすなどして、日頃から地域住民との交流を心掛けている。	開設初年度でもあり、まずは職員から地域との交流に努めようと自治会へも加入し、奉仕作業等に積極的に参加し地域住民との交流の機会を作っている。自治会より行事への招待もあり、今年度は利用者も交えての参加を検討している。毎月地区のお寺にお詣りに出かけたり、幼稚園児の慰問や中学生のボランティアの受け入れもしており、地域の子とも達との交流もある。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	運営推進会議に地域代表者3名が参加し、利用者の現状や活動状況、利用状況等を報告し、助言や指導を頂きながら、サービスの向上及び地域の認知症理解への環境作りを行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の現状や活動状況、利用状況等を報告し、委員からの助言や指導を頂きながら、サービス向上に努力している。	運営推進会議は民生委員、公民館長、家族代表、行政等の参加で2ヵ月に1回、定期的に開催されている。事業所の運営状況や活動報告を行い、それぞれの立場から助言や意見、提案などをもらってサービスの向上に活かしている。家族への会議の報告は家族会・敬老祭で行っている。	

鹿児島県 グループホーム鹿野苑 1ユニット

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に市職員が参加してもらい、利用者の現状や活動状況、利用状況等を報告し、助言や指導を頂きながら、サービス向上に努力している。	ホームの現況報告や相談等で助言をもらうなど、積極的に協力関係を築くように取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を通じ、学ぶ機会を作り、具体的な事例を参考に身体拘束に対する理解を深め、身体拘束を行わないケアの提供に努めている。	身体拘束委員会が組織され、定期的に勉強会を行って周知徹底を図っている。日中は施錠などせず、職員の見守りで安全で自由な暮らしの身体拘束をしないケアに取り組んでいる。不用意に外出する利用者には職員がさりげなくついて行き、見守っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束委員会を通じ、学ぶ機会を作り、高齢者虐待防止に対する理解を深めている。又、事故・ヒヤリハット等を活用し、現状把握に努め、虐待が見過ごされることがないように努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	毎月、勉強会を行うことで、権利擁護について学ぶ機会を増やし、具体的な事例を参考に権利擁護についての議論を行うことで、理解を深めている。		

鹿児島県 グループホーム鹿野苑 1ユニット

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行い、理解・納得していただいた上で同意を頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会・担当者会議・運営推進会議を通し、意見・要望を聞く機会を設けている。又、ご意見箱を玄関先に設置している。	面会時や電話対応、家族会・敬老祭の際に傾聴できる機会を設けている。出された意見や要望については改善策を話し合い、運営に反映させている。また、ホーム便りを利用して職員紹介も行ない話しやすい雰囲気作りに努めている。利用者からは日常の会話の中で意見・要望を聞き出すようにしている	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回、ユニット会議や全体の職員会議を開き、意見交換を行っている。	代表者は職員主体の業務を推奨しており、毎朝夕の申し送り時やユニット会議、職員会議等でサービス内容についての提案や改善課題等活発な話し合いが行われて、運営や利用者のサービス向上に反映させている。各委員会(身体拘束・安全管理・給食・広報・感染)の話し合いも頻繁に行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個別面談を定期的に行い、職場環境・条件等について意見を聞き、整備に努めている。		

鹿児島県 グループホーム鹿野苑 1ユニット

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内外の研修への参加を積極的に促し、必要に応じて個別に指導・トレーニングを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の事業所へ研修に行き、スキルアップを図るとともに、薩摩川内市の主催する事務連絡会等へ積極的に参加し、他事業所との交流を図っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初回相談時より、できる限りの情報を聞き取り、本人が何を一番求めているかを理解出よう心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人と家族の要望に違いがある場合は、双方の意見をうまく調整しながら対応するように心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	優先順位を検討し、他のサービス利用も含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	理念に掲げている通り、自分や家族が受けたい介護を目指している。		

鹿児島県 グループホーム鹿野苑 1ユニット

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との連携に努め、情報の共有を図っている。家族会やイベントに参加して頂く事で一緒に過ごせる時間を作るように支援している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なるべくなじみの物を持参していただき、なじみのある空間作りをしている。知人等の面会がある場合は、居室等の場所を提供している。	家族と一緒ににじみの美容院に外出する利用者もいる。また、友人・知人が来訪しやすいように配慮している。携帯電話を所持している利用者もあり、なじみの人や場との関係が途切れないように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションやお茶の時間等を通して交流の場を設けている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族が相談しやすい環境を作っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	カンファレンスを行い、本人の意向の聞き取りを行い、ケアプランへ反映し、本人の希望に近づけるように努めている。	一人ひとりの話を傾聴するなどして、日々の関わりの中で思いや意向を把握するように努めている。困難な場合は表情、言動、家族や関係者からの情報などから本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初回時に連携書等を使用し、入所前の状況・職歴・趣味・特技等を記入してもらうことで、本人の生涯暦を把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケアプランを基にレクリエーション・脳活性トレーニング・家事動作を通し、残存機能の維持・向上に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者が中心となり、毎月カンファレンスを開き、ケアの在り方についてスタッフ間で協議し、介護計画へ反映出来るよう努めている。	本人、家族の要望により、趣味(花いけ・俳句作りなど)の継続や読書・新聞購読・リハビリなど取り入れた個別の介護計画を作成している。また、モニタリングを毎月行って、その時のニーズに合わせた新たな計画を作成している。	

鹿児島県 グループホーム鹿野苑 1ユニット

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、経過記録を記入することで情報の共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にもまれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出来る限り、ニーズに答えられるように取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	川辺を散歩コースに設定し、地域住民と共に川辺の整備を行い、散歩コースの安全を確保している。散歩コース上に神社・公民館・広場等があり、利用している。月に1回、お寺参りを行い、住職から説法を頂いている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人のかかりつけ医を大切に、健康情報提供書を使用しながら、医師との情報の共有に努め、適切な医療が受けられるように努めている。	本人、家族の希望するかかりつけ医の受診を支援している。本人、家族の状況により受診支援も行っている。家族が連れていく際はホームでの状況がわかるように「健康情報提供書」を持たせ、かかりつけ医との関係を築いている。ホームに看護師もおり、かかりつけ医の往診もある。	

鹿児島県 グループホーム鹿野苑 1ユニット

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常に情報提供を行っており、適切な受診や看護を受けられるように努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院中、定期的に面会を行い、本人の状態を確認している。 又、病棟の看護師・ソーシャルワーカーとも連携を図り、連携を取っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	運営推進会議や家族会などで話し合っている。	重度化や終末期に向けたホームの指針を作成している。入居の時点でホームの方針を説明して同意書を作成している。職員会議等で看取りについての話し合いも行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを作成し、定期的に訓練を実施している。		

鹿児島県 グループホーム鹿野苑 1ユニット

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急連絡網・マニュアルを整備し、地域との協力体制を構築している。年2回避難訓練を実施している。	年2回消防署の協力を得て昼夜間想定で避難訓練を行っている。近隣住民とは協力体制が話合われている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	誇りやプライバシーを損ねない言葉遣いや対応が出来るように、職員会議等で啓蒙を行っている。	個々に応じて方言や敬語など言葉かけに配慮しながら対応している。定期的に勉強会を行って、職員の資質の向上に取り組んでいる。ホーム便りの写真掲載については家族より同意を得ている。また、職員採用時に個人情報保護についての誓約書もとっている	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	認知が在るため、思いや自己決定ができない場合は、声掛け等により出来るだけ思いを引き出せるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	無理強いすることなく、本人のペースを崩すことなく、本人の思いに添えるようなケアの提供に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	朝や入浴時、好みの服を選んでいただいている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の盛付や後片付け等一緒にしている。好みを聞きながらお菓子作りにも取り組んでいる。	個々の力量に応じて盛り付けや片づけなど職員と共に行っている。つわや竹の子などの調理方法を教わったり、家庭菜園のアドバイスや収穫など共に楽しんでいる。毎月全員で道の駅や寿司屋などへ外食に出かけており、利用者の楽しみになっている。また、ときには利用者の希望によりラーメンの出張サービスもしてもらっている。	

鹿児島県 グループホーム鹿野苑 1ユニット

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量・水分摂取量を個別にチェックを行い、摂取量が少ない場合には個人の好みに合わせて飲食してもらっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、必ず口腔ケアを実施している。声掛けして促し、自力で行える方は、自力にて行い、介助を必要とされる方は介助にて行っている。又、夜間は義歯を預かりポリデント等で消毒・洗浄を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄パターンを把握し、トイレ誘導を行い、リハビリパンツ・尿取パットの汚染・失禁が少なくなるように努めている。	個人の尊厳・衛生面・危険防止の観点からおむつ・ポータブルの使用はしない方針である。排せつチェック表を工夫して個々の排せつパターンを把握し夜間でもトイレ誘導やパットの使用で自立に向けたケアに取り組んでいる。少しずつでも改善されていくことが職員の喜びにも繋がっておりやりがいを持って取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝起床時に、冷水を飲水し、レクリエーションの時間等に適度な運動を行っている。		

鹿児島県 グループホーム鹿野苑 1ユニット

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入所者個人の希望や、タイミングに合わせて入浴を楽しんでもらっている。	入浴は基本的には週3回であるが希望があれば毎日の入浴も可能で、入居前の習慣で午前中に入浴をしていた利用者など個々に応じた入浴の支援を行っている。また、ときには足湯に出かけることもある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自由にテレビを見たり、ソファで寛いでもらったりしている。夜間、不眠がある方は静かな環境作りを支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	病院受診後、内服の追加・変更があった場合は情報の共有を図り、観察・確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴を尊重し、個々に合わせた役割や楽しみを提供している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は、川辺を散歩したり、入所者の希望を取り入れながら毎月のお寺参りや買い物・ドライブ等を計画し、行っている。	利用者の希望に応じて買い物、ドライブなど出来るだけホームに閉じこもらないように支援している。また、毎月の外食やお寺詣り、季節に応じてミカン狩り・ブルーベリー狩り、花見、ソーメン流し、初詣、紅葉ドライブ、足湯など普段行けないような場所へも出かけられるように支援している。	

鹿児島県 グループホーム鹿野苑 1ユニット

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が困難な入所者が多いため、家族の理解を得て苑にて預り金という形態でお金を管理している。毎月の買い物やドライブの途中等で好みの物品を購入していただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	ご本人の希望があれば、職員が電話を取次ぐ様にしている。絵手紙や写真等を家族に定期的を送付することで、家族との繋がりを持てるように支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた花を置いたり、個人の生活歴を把握し、自由に過ごしていただいている。調理場もリビングより見渡せるようになっており、一緒に調理等を行っている。	芝生の庭に面してリビングがあり、出入りがしやすい段差である。窓も大きく採られて採光も良く開放感がある。座り心地の良い大きなソファがあり、利用者がリビングで過ごしやすいうに工夫されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル・ソファの座席は定位置を決めず、個々の好きな所に座って頂き、共有空間で思い思いに過ごしていただいている。		

鹿児島県 グループホーム鹿野苑 1ユニット

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所の際、本人の使い慣れた家具等の持ち込みを促し、本人の居心地の良い空間作りに心掛けている。	居室への持ち込みは制限はしておらず、趣味の継続に必要な勉強机や自宅で使用していたいすとテーブル、家族の写真、ぬいぐるみなど利用者のなじみの物品が持ち込まれて居心地良く過ごせるように配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	花の水やり・家事・更衣等、自分で出来ることは自分でして頂き、見守りを行っている。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

鹿児島県 グループホーム鹿野苑 1ユニット

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

鹿児島県 グループホーム鹿野苑 1ユニット

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない